

Buddycomの導入理由

設備管理、警備業務、清掃業務の 他企業間のリアルタイムな情報連携が実現

施設管理

警備

清掃



設備管理の利用シーンとして、防災センターではBuddycomをスピーカーがわりに利用しており、発報があればすぐさま防災センター内で情報共有し、素早く適切な情報を各現場スタッフへ発信します。通常は個別チャンネルで各業務コミュニケーションをとっていますが、緊急時は関連ユーザーが全員入っている全体グループでの運用に切り替えます。

無線機を持たないだけでもだいぶ軽くなりました。

点検作業で結局iPhoneは持ちますし、追加装備が必要なく別途無線機の置き忘れなどもなくなり、スマートフォン1台になったことで連絡が取れなくなることも無くなりました。緊急対応時、離れたスタッフ間でやりとりする際、電話と違いタイムラグがないのがメリットです。

設備管理では有事が起きた際は記録する必要がありますので、話した内容の履歴を後から聞き返せるのが便利です。

今後はカメラと連携できたら業務効率化につながると思います。

チャットの履歴から日報や報告書を作成できるようになればとても便利です、時間を指定できるとより良いですね。

導入前の課題

- ① 多人数間のコミュニケーションを一般無線に頼るコスト(イニシャル)
- ② 他社間、複数社間(警備・清掃)のコミュニケーションを円滑にする方法(一般無線による多量の子機が必要、携帯端末では従業員全員に一斉通知ができず、各業務の責任者経由での連絡になり、タイムロス、初動遅れ、伝言ゲームが発生)
- ③ 連携先の警備業務では、高層階や地下駐車場の配置をしている際に無線が繋がりにくく、会話を中継する事があった
- ④ 電話では1:複数への一斉通話ができない



他業種間のスムーズな連携が実現し、業務が効率化

清掃業務では、イレギュラー時や破損があれば設備管理に報告しています。例えば、エスカレーターの故障なら機器を止める必要があるため、Buddycomで設備管理に指示を仰いでもらい、警備スタッフに現場に来てもらい、お客様の誘導などをしてもらうことで、スムーズな連携がとれています。

清掃業務は終業時間が決まっているのですが、早く業務を終えたスタッフはBuddycomで報告しあい、他の清掃のヘルプへ行くことで業務全体が効率化されました。

また、清掃業務ではチャット機能も利用しますし、聞き間違い防止のため、履歴の確認することもあります。今後、Buddycomで話した内容が、5W1Hで報告書として出力できるようになれば更に使いやすくなると思います。



Buddycomだから出来たコト

納品の速さや、権限の付与、企業間通話等、通話手段柔軟に変更できるため、様々な拠点での運用を考えている企業様では非常に有効に使えと考えられます。

Buddycomは即座に 使用開始が可能で、**端末の コストも削減**

東京ポートシティ竹芝の警備業務では、不審者や物損事故など何かしらの異常があれば逐一状況を設備管理へ報告しており、Buddycomは必要不可欠となっております。
また、今までは監視カメラの映像を逐一確認しながら報告書を書く必要がありましたが、Buddycomを使用している今、会話の時間もわかりますので、履歴を聞き直すことでスムーズに報告書を書くことができます。

警備業務ではお正月やお盆など臨時でイベントごともあります。専用無線機を1日レンタルするだけでも、見積もりや発注で混み合うときは実際に使用できるまで2~3週間かかることもあり、1台1万円以上のコストがかかりますが、スマートフォンアプリ(Buddycom)であれば警備スタッフがスポットで入る際の配置でも即時無線として利用できますし、安価で重宝しています。



導入検討中の方へメッセージ

iPhone/iPadなどの端末だけで簡単に始めることができ、いろいろな場所で活用できると思いますので、ぜひ多くの方にBuddycomを知って、お試しいただきたいです。



オススメできる点

Buddycomは他社間、複数業務間のコミュニケーションを円滑にすることができるのでとても有用です。情報伝達がスピーディーになり、事象への迅速な対応につながります。